

カタール国旗

カタール外務省の資料によれば、カタール国旗は次の意味を表します。

白色は国際的にも認知されている平和のシンボルであり、えび茶色はカタールが経験してきた幾多の戦争、とりわけ19世紀の後半の戦争の間に流された血を意味します。

白の九稜のギザギザは、1916年にイギリスと保護条約を交わした9番目の湾岸首長国であることを示しています。

※ カタール国旗の色とデザインに関する情報は、1931年の英国外務省資料に記載されている。

またその他の資料では、カタールの国旗について次のように紹介されています。

- 19世紀中頃までは湾岸地域の諸首長国の旗は赤の単色のみであったようですが、その後、貿易や人物の交流が盛んになるにつれて、特に海上において、どれがどの首長国の旗か区別しづらくなるという状況が発生しました。
- はっきりとした資料はありませんが、一般には1868年のカタール・英国間の条約締結の際に、カタール固有の国旗が誕生したとされています。この際、それまでの赤一色から、現在の白との組み合わせの物になったようです。
その当時はどの国旗も手製の物であったことから、色調や大きさの割合はもとより、時にはデザインについても様々なタイプがありました。また白の部分についても、まっすぐだったのかギザギザだったのかも、はっきりしていません。
- 20世紀初頭、赤色の部分が、初めは暗赤色に、そして1936年に現行のえび茶色となったようです。ある記録によれば、えび茶色に変更したのは、赤色を使用しているバーレーンの旗と区別するためであったとのこと。また別の説では、掲げられている国旗が太陽の強い日差しで赤茶色に色褪せてしまい、国旗を変更する際に、「色褪せたこの色も悪くはない」ということで現行の色になったということです。
- 1930年代には、白地の部分に、えび茶色の菱形が9個配されたり、えび茶色部に白抜きで国名等が記載されたりもしましたが、その後取り除かれる等の変遷をたどり、1971年の独立に際し、現行の国旗が採用されました。

